



スポーツから体へ 体から脳へ

脳科学・スポーツ科学と地域が連携する子育てへ

開催日

2010.10.11 【月・祝】

場所

徳島大学工学部
共通講義棟創成学習スタジオ

徳島市南常三島町2丁目

主催：国立大学法人徳島大学

共催：社団法人国立大学協会、
徳島地域連携協議会

後援：徳島県、徳島市長会、徳島県町村会、
徳島県医師会、徳島市医師会、
(社)徳島新聞社、四国放送(株)、
NHK徳島放送局

プログラム

- 総合司会 山中英生 (徳島大学地域連携推進室長)
- 14:00~14:05 学長挨拶 香川 征 (徳島大学)
- 14:05~15:25 基調講演 朝原宣治 (大阪ガス・北京オリンピック銅メダリスト)
- 演題「子ども達に伝えたいアスリートの心」
【解説：荒木秀夫 (徳島大学総合科学部、スポーツ・脳科学)】
「朝原陸上競技教室とコーディネーション理論」
- 15:25~15:35 休憩
- 15:35~16:55 パネルディスカッション「子ども・スポーツ・地域社会」
- 進行 清家輝文 (ブックハウス編集長)
- パネラー 朝原宣治 (大阪ガス・北京オリンピック銅メダリスト)
大西真知子 (徳島県スポーツ少年団指導者協議会・運営委員長)
大竹美佐子 (徳島県保健福祉部こども未来課)
荒木秀夫 (徳島大学総合科学部、スポーツ・脳科学)
- 【参加者との意見交換】
- 16:55~17:00 閉会挨拶 五十嵐義明 (徳島大学副学長、徳島大学地域連携戦略本部長)

子どもを取り巻く環境は多くの問題を抱えています。そのことが体力や学力の低下にもつながっており、わが国の将来に関わる大きな問題として受け止めなければなりません。子どもは遊びの中で多くのことを学び、体と心、そして脳を発達させます。それを活かすのがスポーツです。スポーツの経験や科学から得られる成果は、スポーツ以外にも活かせる多くの教訓に満ちています。行政や学校教育現場の努力だけではなく、子ども達が多くの時間を過ごす家庭や地域での生活の中の様々な配慮と工夫によっても、健やかな成長を促すことができるでしょう。今回のシンポジウムは、①トップアスリートが学んだスポーツ界における経験と世界の子どものスポーツ実践②地域スポーツにおける子どもの現状③脳科学・スポーツ科学からみた子どもの成長に及ぼすスポーツ・運動の効果④地域行政における子どもの健全育成の課題などを焦点に、今後の徳島大学と地域との連携の在り方について議論します。

定員200名

申込方法：

どなたでも参加できます。(無料)
当日参加も可能ですが、事前申込みをお願いいたします。(チラシの裏面に参加申込書がありますので、FAX又はメールにてお申し込みください。)

お問い合わせ先：

徳島大学総務部企画・評価課社会貢献係
〒770-8501 徳島市新蔵町2丁目24番地
TEL. 088-656-9752
FAX. 088-656-9965
E-mail. khkhoukenc@jim.tokushima-u.ac.jp



基調講演講師紹介

朝原宣治 [大阪ガス所属・トップアスリートネットワーク(AN)代表]
オリンピックなどの国際大会で陸上競技100m、走り幅跳び、リレーで活躍し、2008年北京オリンピックの400mリレーでは銅メダルを獲得している。16年間にわたる現役生活を終えた現在、子ども達のスポーツを通じた健全育成の活動に取り組んでいる。同志社大学大学院にてスポーツの社会科学の側面からの研究を行い、現在、NOBY陸上競技教室で実践的に応用しながら、青少年の総合的な発達支援を視野に入れた実践研究に取り組んでいる。

